

eGFR 算出について

当機構は今年度から、血清クレアチニンを測定した場合、eGFR を算出しています。健診結果を確認してみてください。

eGFR(推算糸球体ろ過量:estimated glomerular filtration rate)は腎機能の指標になります。基準値は 90(mL/min/1.73m²)以上です。この値は低いほど腎臓の働きが悪いということになります。逆に血清クレアチニン値は高いほど、腎臓の働きが悪いことを示します。

慢性腎臓病(CKD)は慢性に経過する腎臓の病気を包括的に捉える疾患概念です。

今、日本で 30 万人以上の方が維持透析を受けておられますが、その予備軍ともいえる CKD の患者数はとても多く、新たな国民病と考えられています。

CKD の定義は腎機能の低下(GFR<60mL/min/1.73m²)があるか、もしくは腎臓の障害(たんぱく尿やその他の腎障害を示唆する所見)が慢性的に 3 か月以上持続するものです。

腎機能とは、一般的に腎臓の糸球体ろ過値を指し、その評価には従来、主にクレアチニンクリアランス(Ccr)が用いられてきました。しかし、この Ccr は蓄尿を必要とするので、検診などのスクリーニングにおいて測定を行うことは困難です。そこで、血清クレアチニン値と年齢・性別から GFR を推算する計算式が作成されました(下記)。

$$\text{推算 GFR(mL/分/1.73 m}^2\text{)} = 194 \times \text{Cr}^{-1.094} \times \text{年齢}^{-0.287} \text{(男性)}$$

$$= 194 \times \text{Cr}^{-1.094} \times \text{年齢}^{-0.287} \times 0.739 \text{(女性)}$$

Cr: 血清クレアチニン値(mg/dL)

CKD の初期は無症状ですが、定期的に尿検査と血清クレアチニン検査を受けることで早期発見が可能です。また、CKD は予防、治療や進行の遅延の可能な疾患で、生活習慣と深く関わるため、生活習慣の変更によっても改善が可能です(原因は糖尿病、腎炎、加齢など様々です)。

コースによって、健康診断の項目は異なるため、血清クレアチニン値を測定していない場合があります。腎機能が心配な方は、病院などで検査してもらうようにしましょう。

